

2016年4月28日
早稲田大学・黒田祥子

健康増進と経済再生

●健康になると、なぜ経済再生や生産性上昇につながるのか？

- c.f. 有業率と健康寿命との間の正の相関：因果関係は逆の可能性は？
「健康になる→有業率 up？」 それとも「有業率が高い→健康？」

個々人や個別企業は、健康を損ねることがいかなる損失になっているかに気づきにくい。
⇒健康増進へのインセンティブを持ちにくい

① 医療費の抑制→他の支出への振替

教育投資、技術開発、研究開発投資

ご参考) 現役世代の介護の問題 (図 1)

② 健康と賃金

健康保険料率の事業主負担分の上昇 (労働需要側のコストの上昇)

→雇用者の賃金の低下 and/or 雇用の減少 and/or 非正規との代替

→賃下げや失業の増加→税収の減少→社会保障費のさらなる抑制が必要に

∴健康増進→医療費の抑制→健康保険料率の抑制→賃上げ→増収&経済再生

③ 健康と格差

悪い健康状態→低賃金 or 失業の確率の増加→格差の拡大

e.g. 女性や高齢者？ 男性は？

④ 健康と生産性

Cf. 人的資本理論 (健康寿命の増加→教育投資の増大→経済成長：開発途上国)

健康増進に取り組むことで、さらなる成長 (生産性上昇) を見込めるか？

ご参考) 企業業績とこころの健康(メンタルヘルス、以下 MH) (図 2)

→MH を毀損している従業員が多いと利益も低くなる

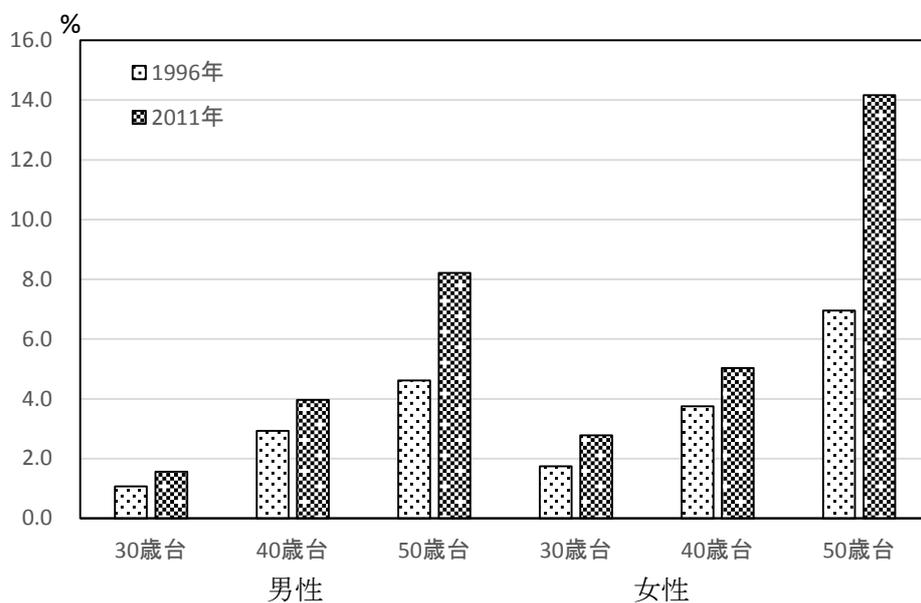
※ただし、費用対効果は？ 単なる企業のコスト増にならないか？

c.f. 各種の施策 (ストレスチェックなど) →メンタルヘルス休職者を引き下げる？

●長期的な視点

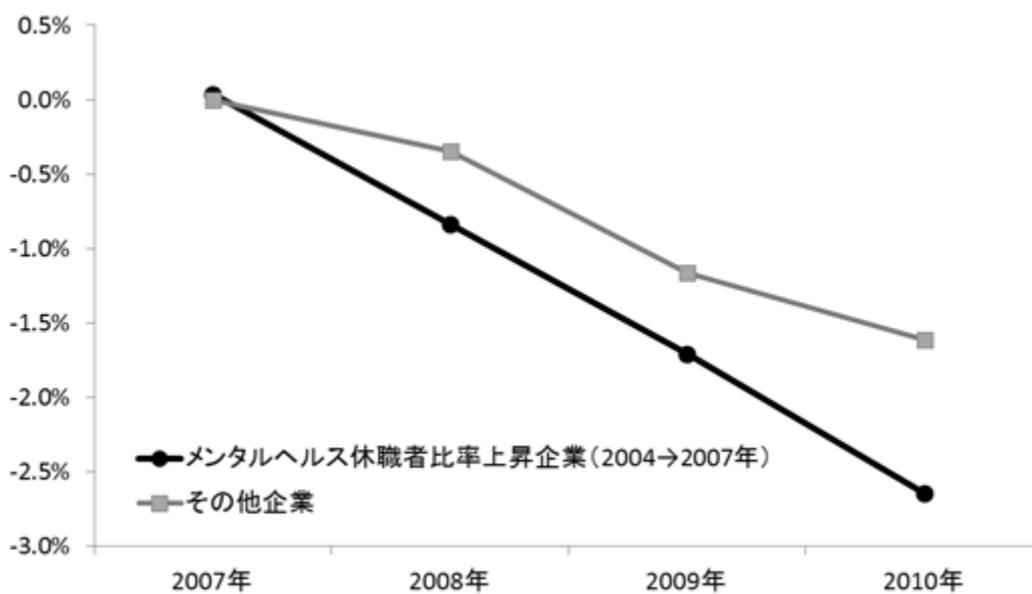
日本的雇用慣行の問題 (長時間労働、低い流動性)、健康と技術革新・教育等

図1：正社員（年齢別）に占める介護をしている人の割合



出所) 黒田祥子、「中間の年齢層の働き方 — 労働時間と介護時間の動向を中心に」、『日本労働研究雑誌』No.653、12月号、労働政策研究・研修機構、2014年、59-74頁。

図2：メンタルヘルス休職者比率と売上高利益率との関係



出所) 山本勲・黒田祥子、『労働時間の経済分析——超高齢社会の働き方を展望する』、日本経済新聞出版社、2014年